

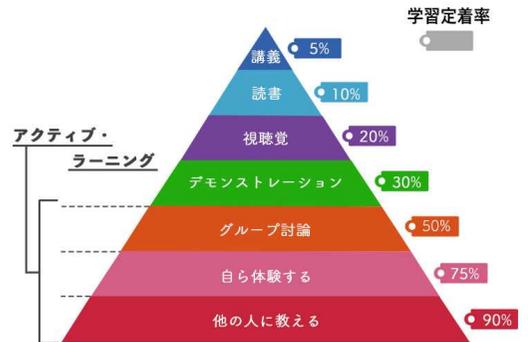
西中学校区 保幼小中連携通信

グローイングアッププラン 2年目 [点を明確にするブロック連携]

第2号 平成30年11月26日 発行責任者 福田・黒岩
(西中学校区連携コーディネーター)

～ 道徳の授業としての成立要件とは ～

今回講師として来ていただいた荒木寿友先生のお話はかなり短い時間でしたがとても分かりやすく、今回の研修を充実したものにしてくれました。道徳科の目標をはじめ、“これからの道徳の方向性”や“考える道徳”“論議する道徳”をキーワードを使いながら説明がありました。ただ皆さんもご存知だと思いますが、話を聞いても我々は5%しか頭の中に残らないんですよね。



ラーニング・ピラミッド

↑有名なピラミッドですね

もう一度、有意義な時間を取り戻すために講演の内容を触れておきます。

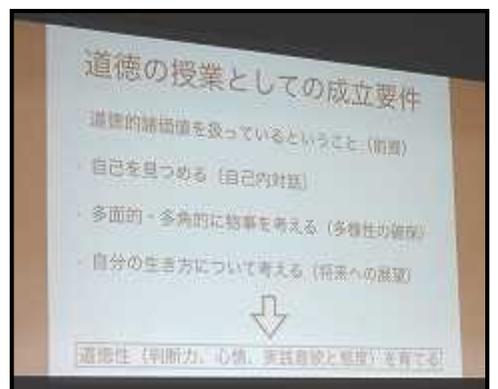


学習指導要領に書かれている道徳科の目標の説明がありました。道徳科の目標とは…

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、① 道徳的諸価値についての理解を基に、② 自己を見つめ、③ 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、④ 人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

また、道徳の授業としての成立要件として、この目標を満たしていればよい(もしくは満たしていなければならない)ので、細かく見てみると…

- ① 道徳的諸価値を扱っていること(前提)
 - ② 自己を見つめる(自己内対話)
 - ③ 多面的・多角的に物事を考える(多様性の確保)
 - ④ 自分の生き方について考える(将来への展望)
- 道徳性(判断力、心情、実践意欲と態度)を育てるとなる。



これを基に今回の2年生の研究授業を見てみると…

① 道徳的諸価値を扱っていること（前提）

→ 相互理解、寛容（B-9）自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自ら高めていくこと

② 自己を見つめる（自己内対話）

→ 自分の見方や考え方が妥当なものであるのか自分自身で確認
→ 個人で考え、班で交流。その後、全体で交流

③ 多面的・多角的に物事を考える（多様性の確保）

→ 例えば、のび太の性格は“おとなしい”“優しい”“のんびり”と考えたり、すぐドラえもんに道具を出してもらって“ズルい”と考えてみるなど多角的に考えてみる。

④ 自分の生き方について考える（将来への展望）

→ ふりかえりを書き、班長の大変さを理解したり、今の班員やこれからの班員とどのように協力していくのか考えきっかけとなる。またクラスメートのふりかえりを聞くことで自分以外の考え方の変化に気づく。

また、荒木さんは明治図書の本での連載で、今回のドラえもんの実践について、荒木さんのアイデアも加えて紹介されています。簡単に書くと、『のび太やしずかちゃんなどの合計5名のキャラクターに自分自身を加えた6名で班の座席を考える。どういう席の配置にすると学校生活がさらに充実したものになるだろう』という中心的な問いを提示するという指導案です。

この問いのポイントは、**自我関与**。「登場人物5名の班の座席を考えましょう」という問いだと、俯瞰的に眺めることはできる一方で、自分自身がその場に関わるということは極端に少なくなってしまい、結果的に他人事の道徳になってしまう。だから、自分がドラえもんのメンバーの一員ならばどういった役割を担うことができるのか、外から眺めて考える場合よりも、もっとリアリティがでる。ここがポイントである。と。

また、他者と意見交換することで、キャラクターの捉え方も必ずしも全員一致していないことに気づくことが出来る。「ジャイアンは乱暴者だけど、しずかちゃんには逆らえないんだよ」という生徒の意見を聞いたときに、大人でも納得することもある。これが多角的に物事を考えるきっかけだと思います。

今回の講義の内容を触れましたが、講義内容は荒木先生の著書「ゼロから学べる道徳科授業づくり」に丁寧に書いてあります。この本はとても読みやすく分かりやすく書かれていました。この本の冒頭にこんなことが書かれていました。



大事なのは、やってみること。そしてそこからいろんなことを吸収して、次に活かしていくことです。また、「道徳じゃないね」って言われたら、「そうでしたか！ご指導お願いします！」と言えばいいんです。気楽に行きましょう。